

現代青少年の文化と意識（6）経済的成功に対する考えの特徴と変化

国際大学 寺地幹人

1 目的

本報告の目的は、都市若年層（16～29 歳）の経済的成功に対する考えの現代の特徴と変化を、質問紙調査のデータの時点比較で明らかにすることである。青少年研究会はこれまで、杉並と神戸に在住する青少年への質問紙調査を行ってきたが、その中には、社会意識に関する質問項目がある。社会意識は、現実の行動やステータスと相互に関連するものだと考えられる。経済的成功についての考えもおそらく例外ではなく、社会的地位や労働の実態などに左右されるとともに、それらに影響を与える関係にあるだろう。ただ、そうした関連を一つ一つ検討する前段階として、経済的成功に対する考えそのものが、日本の都市若年層においてどのような傾向を有し、かつそれが今日的なものであるかどうかを確認しておくことは有効と考えられる。よって報告では、本研究会の研究蓄積、具体的には藤村（1995）、浜島（2004）、ハマジ（2006）の知見を踏まえながら、成功に対する考えの状況を確認していく。

2 方法

分析には、青少年研究会の 2002 年および 2012 年調査のデータを用いる。分析で注目する質問項目は「あなたは、現在の日本の社会で経済的に成功するのに重要なものは何だと思いますか」で、これに対し、「生まれ育った家庭の環境」「個人の才能」「個人の努力」「運や偶然」の選択肢 4 つに順位付けする方法で回答が求められている（2002 年、2012 年若年・中年共通）。1～4 位それぞれの回答結果（全体に占める割合）を、2002 年の 16～29 歳と 2012 年の 16～29 歳で比較し、傾向を把握する。加えて、性別、年齢層、現職、学歴など、デモグラフィック別にも結果を確認する。また、ある時期に生まれた回答者層の 2 時点での結果の比較、2012 年の若年層と中年層（30～49 歳）の結果の比較も参考にすることで、時代・世代・年齢の効果について考察する。

本研究会がこれまで明らかにしてきた知見を踏まえ、以下の 2 つをまずは検討する。

- (1)努力重視の傾向は 2002 年と同程度か、それ以上に衰退しているか。
- (2)才能（個人的・限定的要因）が重視される 2002 年の傾向は続いているか。

3 結果

上述の検討点 2 つに対して、概ね以下のような結果が確認された。まず(1)に関してだが、2002 年と比較して、「個人の努力」を経済的成功の要因と考える者の割合に大きな変化はない。次に(2)に関して、2002 年調査の結果に比べ 2012 年調査の結果では、「個人の才能」を経済的成功の 1 番の要因と考える者の割合が、若年層全体で 10%程度低くなっていた。そして、「生まれ育った家庭の環境」をそれと考える者の割合が高くなり、「個人の才能」を上回った。このことは、成功が限定的なもの（後から変わらないものに左右される、公平ではない）と理解される点には変わらないが、格差社会論の人口への膾炙などもあってか、個人的な問題というよりも非個人的な問題として意識されるようになった、あるいは各人の中に成功というものが見出されがたくなっていることを示唆しているのではないだろうか。

文献

- 藤村正之, 1995, 「生得：努力：偶然＝3：5：2——何が人生を決めるのか」高橋勇悦監修, 川崎賢一・芳賀学・小川博司編『都市青年の意識と行動——若者たちの東京・神戸 90's 分析編』恒星社厚生閣, 191-212.
- 浜島幸司, 2004, 「経済的に成功する条件——『努力』と『才能』の違い」高橋勇悦編『都市的ライフスタイルの浸透と青年文化の変容に関する社会学的分析』2001～2003 年度科学研究費補助金研究成果報告書, 大妻女子大学, 375-389.
- ハマジ・マツアリーノ・Jr, 2006, 「新 どっちの要因ショー——経済的に成功するための重要な条件とは？」岩田考・羽渕一代・菊池裕生・苔米地伸編『若者たちのコミュニケーション・サバイバル——親密さのゆくえ』恒星社厚生閣, 149-163.